



# 広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻  
 京都大学医学部人間健康科学科



学位授与式 (2022年3月実施)

## 目次

○専攻長・学科長メッセージ	足立 壯一… 2	○2021年度オープンキャンパス	…11
○京都大学大学院医学研究科附属医療DX教育 研究センターの設立について	奥野 恭史… 3	○新規博士	…12
○退任挨拶		看護科学コース	近田 藍…14
元先端リハビリテーション科学コース	助教 岡橋さやか… 4	リハビリテーション科学コース理学療法学講座	青木(佐久間)香…14
元先端看護科学コース	講師 近藤 祥子… 4	看護科学コース	藤野 葉子…15
元総合医療科学コース	教授 精山 明敏… 5	看護科学コース	中本 五鈴…15
元先端看護科学コース	准教授 宇都宮明美… 5	検査技術科学コース	渡辺 翔吾…16
元先端リハビリテーション科学コース	准教授 加藤 寿宏… 6	検査技術科学コース	足立 孝則…16
元先端看護科学コース	助教 佐藤 隆平… 6	検査技術科学コース	三浦 辰朗…17
○新任挨拶		リハビリテーション科学コース理学療法学講座	下浦佳南子…17
健康医療AI講座(産学共同)	特定准教授 峰晴 陽平… 7	リハビリテーション科学コース理学療法学講座	川崎詩歩未…18
健康医療AI講座(産学共同)	特定助教 糺谷 泰彦… 7	検査技術科学コース	谷口健太郎…18
先端看護科学コース	特定准教授 大塚 教雄… 8	リハビリテーション科学コース理学療法学講座	脇田 正徳…19
先端作業療法学講座	助教 草野 佑介… 8	○入試、修了・卒業生数	…20
総合医療科学コース	教授 中尾 恵… 9	○卒業生の進路調査結果	…23
総合医療科学コース	准教授 福間 真悟… 9	○人事異動	…24
先端看護科学コース	特定助教 原田 陽平…10	○日誌	…26
先端作業療法学講座	助教 兼重 美希…10	○あとがき	…27



## 専攻長・学科長メッセージ

足立 壯一

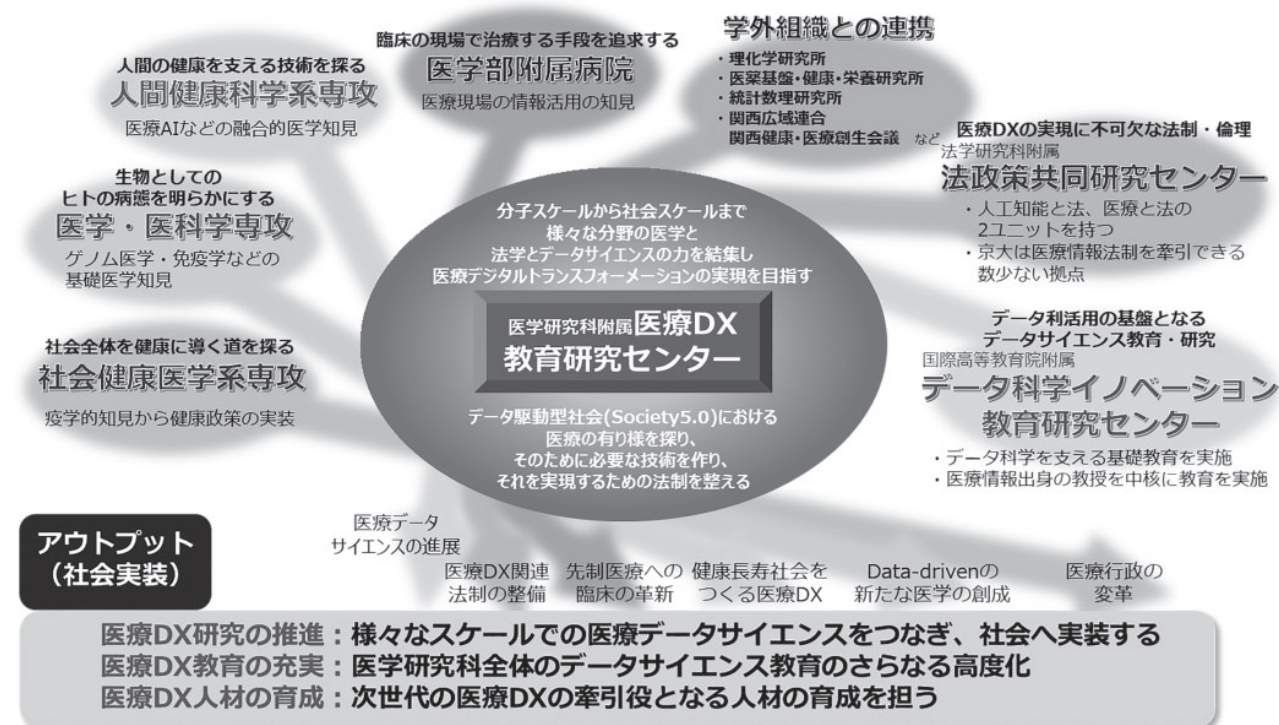
皆様、COVID-19 パンデミックは収束の兆しも見えてきていますが、医療現場では、まだまだ大変な日々をお過ごしのことと存じます。人間健康科学系専攻の重要なミッションである大学院増員（修士 21 名、博士 10 名同時増員）を達成後、修士は毎年、多くの受験生がありますが、博士課程を受験する学生は伸び悩んでおり、重要な課題であると認識しています。本学博士課程受験者を増やす方策として、医学研究科に新設されたデータサイエンス人材（博士課程）を育成する DX センターが挙げられます。DX センター専任教員として、人間健康概算要求で獲得した准教授 1 名と、若手戦略定員で獲得した講師が、選抜されました。先端看護の奥野教授（DX センター兼任教授）と共に、医療専門職のデータサイエンス教育に尽力し、人間健康から世界をリードするデータサイエンス人材が育成されるものと信じています。一般入試の学部生 70 名と、特色入試の学部生 30 名（先端看護 20 名、先端リハビリの理学 5 名、作業 5 名）および、2 年次学士 17 名（先端看護 12 名、先端リハビリ 5 名）が、ともに学び、切磋琢磨しておりますし、また、新設された総合医療科学コースの 1 期生の多くが今年度は修士課程を卒業いたします。組織改革では、学生の皆さんが将来、医学・医療に関わるものとして大きく成長していくためのプログラムの、さらなる充実も図りました。京都大学医学研究科、医学部附属病院、iPS 細胞研究所、医生物学研究所（旧；ウイルス・再生医科学研究所）をはじめとする部局で世界をリードする独創的な研究をされている先生方が、学生の卒業研究と、その後の大学院での指導をご担当いただいています。大学院教育の重点化は、急速でダイナミックに変貌し続ける医療を実践し、発展させる医療人・医学研究者を育てるために必要であると私たちは考えています。特に、COVID-19 パンデミックで明らかになった IT 後進国である我が国の将来を、本学の学部・大学院卒業生が大きく変革してくれることを期待しています。グローバルな医療の変化と進歩に対応できる高度医療専門職として、あるいは独創的な新規医学分野を開拓する研究者として、これまで以上に社会に大きく貢献していくことを信じて、教員一同、学生教育に邁進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

# 京都大学大学院医学研究科附属医療 DX 教育研究センターの設立について

人間健康科学系専攻 ビッグデータ医科学分野 教授 奥野 恭史

医療・医学の発展による医療情報のデジタル化に伴い、AI・ビッグデータは保健医療分野においても革命を起こし、医療のDX（デジタルトランスフォーメーション）化に向けて、世界で熾烈な研究開発競争が行われています。

このような背景から、令和4年度4月に「医療DX教育研究センター」が医学研究科に新設されました。当センターは、医学研究科4専攻（医学専攻、医科学専攻、人間健康科学系専攻、社会健康医学系専攻）の協働と、人文社会学域（法学）・データ科学教育拠点（教育院）との先端的融合により、分子レベルから細胞、臓器、人体、そして社会レベルまで様々なスケールの医学の知とデータサイエンスを結集し、医療DX研究を牽引しつつ、さらに法制・倫理の観点も加えて医療DXに関する研究を推進し、社会に通用する世界トップレベルの医療DX人材の育成を目指します。



## 退職のご挨拶

元先端リハビリテーション科学コース 助教 岡橋 さやか

令和4年1月31日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。コロナ禍のため直接お目に掛かかってのご挨拶が叶いませんでしたが、紙面を借りてご挨拶申し上げます。

私は、平成24年2月よりリハビリテーション科学コース作業療法学講座に着任し、10年間在籍いたしました。PT・OTの学部教育や附属病院での臨床、研究科内外での学際融合研究や産官学連携プロジェクト等、様々な活動に携わる機会に恵まれました。これを通して、多くの先生方より貴重なご指導とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

ご縁があって現在は、国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター老年社会科学研究部にて勤務しております。京都大学で培った経験を生かして、愛知県でさらに健康長寿の学術的発展と政策に貢献できる研究に邁進していきたいと存じます。

末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々のご発展、そして皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



## 退職のご挨拶

元先端看護科学コース 講師 近藤 祥子

2022年2月28日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

2018年4月、聖護院のキャンパスに助教として着任いたしました。4年間という短い間ではございましたが、多くの大学院生・学部生の研究の指導と教育に携わらせていただき、また、学内業務においても様々な機会を頂戴し楽しく貴重な経験をさせていただきました。教員として未熟な私を快く受け入れ温かく育ててくださったのは、一重に人間健康科学の先生方始め研究活動や業務を支えて下さった皆様への懐の大きさと、学生の優秀さのおかげであったと感謝しております。京都大学、そして学際的で自由な雰囲気を持つ人間健康科学系専攻という存在がなければ、自身の特異な経歴をキャリアに活かすチャンスを得ることもできなかつたろうと思います。感謝してもし尽くせません。3月より北海道大学大学院保健科学研究院で、引き続き大学院での助産師教育に携わっております。これまで教わったことを胸に、日本の健康科学分野の発展に尽くせるよう、精進して参る所存でございます。コロナ禍での数少ない光明と申しますか、以前よりコミュニケーションをとる距離は縮まった世の中となりました。今後とも引き続きのご指導ご鞭撻をどうか賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

末筆となりますが、皆々様の御健勝と益々の御発展を心より祈念申し上げます。

緑濃い札幌より感謝を込めて





## 退職のご挨拶

元総合医療科学コース 教授 精山 明敏

2022年3月末をもって14年半勤務させていただいた京都大学を定年退職し、4月から秋田市にあります国際教養大学のデザイン創造データサイエンスセンター・センター長として勤務させていただいています。京都大学定年後はドイツのマックスプランク研究所(ゲティンゲン)で「残りの人生、悔いのないように思い切り研究を！」と考えて準備していましたが、2019年冬に始まったCOVID-19で大きく予定が変わりました。

とはいえ、学生時代から数えますと47年間の長い間、国立大学において研究教育に従事させていただいた上に、今後も、公立大学において研究教育に従事させていただくことになり、「研究と人材育成」が自分の果たすべき使命として与えられていたのだと、あらためて痛感しております。

また、教授として着任させていただいた京都大学では、大学院の設置から大学運営、入試関連業務など重要な業務を経験させていただき、当大学における私の業務の礎になっております。

顧みまして、在任中にご指導を賜りました諸先輩教職員の皆様、また、ご栄転されて行かれた諸先生方、3月までご一緒いただいた教職員の皆様に深く感謝いたします。

今後も共同研究や研究会等で京都大学に伺うことも多いかと存じます。あらためまして今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

元先端看護科学コース 准教授 宇都宮 明美

令和4年3月31日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響の中での異動となり、皆様へのご挨拶が叶わなかったことを心残りにしておりましたが、紙面を借りてご挨拶の機会をいただくことができ、誠にありがとうございます。

私は、平成30年4月よりダブルアポイントメント教員として着任し、大学院クリティカルケア看護学高度実践研究者コースの立ち上げと、京都大学医学部附属病院看護部副看護部長として、急性期医療でのチーム医療の推進に尽力させていただきました。臨床ではコロナ患者家族ケア、大学院では修了生の専門看護師試験の合格などの経験をさせていただき、病院長、看護部長をはじめ、多くの先生方よりたくさんのご支援、ご指導を賜りました。深く感謝申し上げます。

現在は関西医科大学看護学部・看護学研究科にて勤務しております。京都大学で得た経験を活かして、関西医科大学においてもさらに教育・研究に邁進していきたいと思っております。末筆ではございますが、人間健康科学系専攻の益々の発展を祈念するとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 退職のご挨拶

元先端リハビリテーション科学コース 准教授 加藤 寿宏

令和4年3月に京都大学を退職し、4月から関西医科大学リハビリテーション学部で勤務しています。長い間大変お世話になり、ありがとうございました。

私は平成元年9月に医療技術短期大学部作業療法学科に助手として着任しました。その後、医学部保健学科、人間健康科学科、医学研究科人間健康科学系専攻への組織変更にともない、多くの先生方や院生と一緒に教育や研究活動をさせていただきました。医療技術短期大学の頃は、臨床ですぐれた実践ができる作業療法士を育成することが主な役割でした。私の専門とする発達作業療法は、作業療法の中でも少数派ですが、恩師である小西紀一先生、木俣祐子先生、長谷龍太郎先生の後を引き継ぎ、「発達に強い京大」の看板は、何とか守ることができたと思っております。研究においては、作業療法の臨床を研究につなげていくことを目標に行ってきましたが、総じて悪戦苦闘の連続でしたが、研究室に所属していた田畑先生、草野先生が教員としてもどってきてくれたことで、ある程度は責任を果たすことができたのではと考えております。

4月から私にとっては未知の私立大学で、月に何回かは似合わないスーツを着用し勤務しております。発達に興味がある学生も多く、「臨床も研究も発達に強い関西医大」を目指し、大学院設置後には京都大学の卒業生をいただけるようになりたいと思っております。

末筆になりますが、人間健康科学系専攻および皆様のさらなるご活躍と発展を祈念しております。

## 退職のご挨拶

元先端看護科学コース 助教 佐藤 隆平

2022年3月31日をもって、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしましてご挨拶を申し上げます。

私は2014年11月より教員としてのスタートをこちらでさせていただき、7年5か月にわたってお世話になりました。幸いなことに、私は医学部附属病院呼吸器内科の先生方とのご縁を得て、臨床研究をさせていただきました。また上司の西山准教授、社会健康医学系専攻の石見教授のご指導の下、心肺蘇生に関する研究も経験させていただきました。教育においては、成人看護学の急性期だけでなく慢性期の科目についても担当の機会をいただき、様々な学びを得ました。研究・教育において、多くの先生方から温かいご指導ご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

4月からは神戸市看護大学に勤務しています。新しい地で、京都大学において培った研究・教育の経験を生かし、日々精進していく所存でございますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

今まで、本当にありがとうございました。



## 着任のご挨拶

健康医療 AI 講座（産学共同） 特定准教授 峰晴 陽平

2021年6月1日付で、京都大学大学院医学研究科 人間健康科学専攻 健康医療 AI 講座（産学共同）の特定准教授に着任致しました峰晴陽平と申します。この場をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

専門は脳神経外科で、遺伝子や画像データを用いた疾患発症の予測と予防の研究をしています。京都大学大学院医学研究科・脳神経外科の橋本信夫教授と環境衛生学分野の小泉昭夫教授のご指導を受け、博士号を取得しました。その後、3年間、米国ロサンゼルス Cedars-Sinai Medical Center で博士研究員として勤務致しました。臨床では、難病のもやもや病（脳血管が狭くなり、代償するようにモヤモヤした血管が発達する）や難治性の悪性神経膠腫の診療に携わって参りました。

本講座では、様々な生体情報を組み合わせて、これまでにない精度で疾患を予測すること、適切な介入方法を開発することを目指しています。

この度は、大変恵まれた環境の中で研究させて頂く機会を頂き、感謝致しております。微力ながら、本専攻の発展に貢献できるよう、研究はもとより、教育、社会活動に全力で取り組んで参る所存です。ご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。



## 着任のご挨拶

健康医療 AI 講座（産学共同） 特定助教 糺谷 泰彦

2021年6月1日より京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 健康医療 AI 講座に特定助教として着任致しました糺谷泰彦と申します。本稿をお借りして着任のご挨拶を申し上げます。

私は京都大学医学部医学科を2009年に卒業後、同年より田附興風会医学研究所北野病院の初期研修医、2011年より神戸市立医療センター中央市民病院の循環器内科専攻医を経まして2014年に京都大学大学院医学研究科の博士課程に入学し2018年に修了、その後は京都大学医学部附属病院 循環器内科の医員を勤めてまいりました。内科認定医・総合内科専門医・循環器専門医・不整脈専門医・情報処理技術者（基本・応用）の資格を有しております。

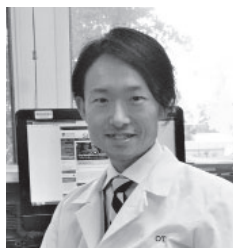
博士課程在学中は木村剛教授・牧山武助教・野間昭典上席研究員の御指導のもと、ヒト iPS 由来分化心筋 (hiPSC-CMs) を用いた遺伝性不整脈疾患の解析モデルの確立と、その評価系としての hiPSC-CMs 電気生理学的コンピュータ・シミュレーションモデルの開発に携わって参りました。また、臨床業務としてはカテーテルアブレーション手術を中心とした不整脈臨床・循環器臨床に従事しております。

この度着任させて頂きました健康医療 AI 講座は多様なモダリティかつ独自性を有する医療・ヘルスケアの時系列データを保持しており、社会に還元され得る疾患発症予測 AI モデルの開発を目的として新規に創設されました。これまでの臨床経験と数理モデル開発経験を活かして医療現場のニーズを満たす AI 開発を行って参りたいと考えております。皆様からの御指導御鞭撻の程何卒よろしく願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

先端看護科学コース 特定准教授 大塚 教雄

2021年10月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学分野の特定准教授に着任致しました大塚教雄と申します。この場をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。私は2003年に金沢大学大学院自然科学研究科にてX線光電子分光法・X線発光分光法・オージェ電子分光法の統一的量子化学計算手法の開発と有機高分子の界面表面分析への物理化学的研究を通じて学位を取得し、その後も継続して量子化学的手法を用い、対象系を生体高分子としまして計算物理化学的研究を行ってきました。これまで、生体高分子の材料科学応用や機能性分子との創薬科学応用、また、京コンピュータといったハイパフォーマンスコンピューティング開発を通して研究を進めてきました。今回、ご縁をいただきまして、現在は量子化学手法と機械学習手法に基づいた量子的分子情報の創薬科学的な研究への展開と量子コンピュータへの実装に対する実問題解決に取り組んでいます。このたび、京都大学にて研究と教育活動に携わるという大変光栄な機会をいただきまして、本専攻の発展に少しでも貢献できますよう、教育・研究・社会活動に尽力する所存でございます。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。



## 着任のご挨拶

先端作業療法学講座 助教 草野 佑介

令和4年2月1日付けで、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法学講座に助教として着任いたしました、草野佑介と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。私は、2008年に本学医学部保健学科を第1期生として卒業しました。卒業後2年間は、滋賀県立小児保健医療センターで作業療法士として勤務したのち、2010年から現在まで、京大病院リハビリテーション部で12年間勤務しておりました。新生児から高齢者まで、幅広い対象者に対する作業療法を実践して参りました。この度、ダブルアポイントメント教員として採用して頂き、引き続き京大病院リハビリテーション部での臨床業務に従事しながら、先端作業療法学講座での教育・研究に励んで参ります。特に、京大病院こども医療センター、ICU、NICU/GCUを中心に小児患者の臨床・教育・研究に従事致しますが、これまでの附属病院での幅広い領域の臨床経験を活かし、分野横断的に本学のヘルスサイエンスの発展に寄与できるよう邁進していく所存でございます。今後のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。





## 着任のご挨拶

総合医療科学コース 教授 中尾 恵

2022年4月に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻理工系医療科学講座の教授へ着任致しました。

私は2003年に京都大学大学院情報学研究科において情報学の学位を取得後、医学研究科に特任助手として在籍しました。2004年から奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科にて助手/助教を経験し、その間にハーバード大学医学部 Brigham and Women's Hospital に留学する機会を頂きました。その後2011年からは京都大学大学院情報学研究科 准教授として臨床医学を対象とした機械学習とデータ科学の研究に従事し、この度再び医学研究科にお世話になることになりました。

二つの研究科に在籍しながら、情報学と医用工学の接点を主な研究対象としてきたことから、分野名を智能医工学と決めました。今でも呼吸器外科、放射線治療科、肝胆膵移植外科、泌尿器科、口腔外科など幅広い臨床医学の研究者、医師、学生の皆さんと共同研究を継続しており、最近では医用人工知能をキーワードに医工情報の融合分野を開拓して行きたいと思っています。

私は工学・情報学と臨床医学の研究者が各々大事にしているイメージを共有し、異なる視点から見ることによって、それぞれの分野を飛躍させ、医療の高位平準化に繋がると信じています。本専攻はそのような医工情報連携に最良の研究・教育環境を構築されていると感じています。自らも自身の専門性を生かして人間健康科学の発展に寄与し、さらにはけん引して行けるような研究・教育活動ができればと考えています。よろしく願い申し上げます。



## 着任のご挨拶

総合医療科学コース 准教授 福間 真悟

2022年4月1日付で、総合医療科学コース臨床研究開発学の准教授に着任いたしました。私は、2002年に医師となり8年間、内科の臨床医として勤めた後、2010年より2013年まで社会医学系専攻で疫学を学び、2013年より京都大学医学部附属病院で臨床研究の教育や研究支援を行って参りました。2017年からは京阪神次世代グローバルリーダー育成コンソーシアムの特定准教授として人間健康科学系専攻に所属させて頂いておりました。

この度、臨床研究開発学の准教授として、引き続き活動する機会を頂きまして感謝申し上げます。私は、臨床医の時の経験から、医療、保健、介護の現場に役立つエビデンスの創出およびエビデンスの還元によって、患者・国民の行動変容、健康アウトカム改善、医療の質の向上を目指したいと考えております。現在は、自治体、保険組合、医療・介護施設をフィールドとして、健康医療ビッグデータから健康課題を抽出し、課題解決のための介入を設計、実装、評価する "Learning Health System" に取り組んでいます。疫学、情報学、臨床医学、行動科学、行動経済学の知見を融合し、学際・産学・国際連携することで、様々なレベルでの健康課題解決を目指しています。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

## 着任のご挨拶

先端看護科学コース 特定助教 原田 陽平

2022年4月1日付で京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻ビッグデータ医科学分野の特定助教に着任致しました原田陽平と申します。この場をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。私は、2009年3月に山口大学医学部医学科を卒業致しまして、初期研修の後に千葉県にある鉄蕉会亀田総合病院で腫瘍内科の後期研修を受け、主に腫瘍内科医として診療に従事して参りました。2016年4月より、ご縁があり佐賀大学医学部附属病院で血液・腫瘍内科の病院助教に着任させて頂き、2018年4月からは博士課程で主にごんゲノム医療で認められるがんの遺伝子バリエーションの機能解析等をテーマに研究も行って学位を2022年3月に取得致しました。臨床でも2021年4月からは院内のがんゲノム医療の専門部署である、がんセンターがんゲノム診療部門の助教として院内のがんゲノムを円滑に行うための業務にも従事して参りました。現在、我が国でも個別化医療の流れが進んでおり、がん治療でも今後さらに個々に適した治療選択が重要になってくると思われます。ゲノム異常及びそれがもたらす分子メカニズムの解明や、それに基づいた治療提案に関して、計算を用いたアプローチに取り組ませて頂き、よりよいがんゲノム医療の実践につながるような研究を目指したいと考えております。まだまだ未熟な部分が多くございますが、皆様のご指導鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。



## 着任のご挨拶

先端作業療法学講座 助教 兼重 美希

「母校を盛り上げたい」という思いで、京都大学に戻って参りました。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、本学作業療法学専攻を卒業し、3年間、作業療法士として実務経験を積みました。その後、大学院生として本学の旧：生理学教室、旧：高次脳形態学教室の先生方にご指導をいただき、ラットを使って運動制御に関する基礎研究を行い、博士号を取得しました。その後もポスドクとして、東京都医学総合研究所の西村幸男研究室で、運動制御/リハビリテーションに関連した基礎研究を続けてまいりました。臨床現場で、患者さんの望み通りに機能回復をする難しさを感じた経験は、今でも私が研究を行う原動力になっています。リハビリ医療の発展に貢献できるよう、精進していきたいと思っております。是非、気軽に声をかけていただけますと幸いです。

## 2021 年度オープンキャンパス

2021 年度オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、WEB サイト上への動画公開というかたちで行われました（表 1）。また、人間健康科学科独自企画として、Zoom によるオンライン企画も実施されました（表 2）。アンケート調査から、いずれの企画も好評でした。2022 年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、WEB 上での開催となりますが、京都大学医学部人間健康科学科に多くのやる気のある学生をリクルートするために、重要なイベントであると思われます。

表 1 オープンキャンパス 2021 コンテンツ一覧

医学部人間健康科学科
医学部人間健康科学科長メッセージ（動画）
人間健康科学科の概要説明（動画）
特色入試について（動画）
人間健康科学科オンライン相談会（配信）
先端看護科学コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース長の挨拶（動画）</li> <li>・コースの概要（動画）</li> <li>・OB/OG からのメッセージ（動画）</li> </ul>
先端リハビリテーション科学コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース長挨拶（動画）</li> <li>・在学生の声 [PT/OT]（動画）</li> <li>・教員・授業紹介 [PT]（動画）</li> <li>・動作解析デモンストレーション [PT]（動画）</li> <li>・卒業生トークセッション [PT]（動画）</li> <li>・ミニ模擬講義 [PT]（動画）</li> <li>・作業療法学講座長挨拶（動画）</li> <li>・作業療法学講座の紹介（動画）</li> <li>・研究紹介 [OT]（動画）</li> <li>・大学院生、卒業生メッセージ [OT]（動画）</li> <li>・オンライン相談会 [PT/OT]（配信）</li> </ul>
総合医療科学コース <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースの概要説明（動画）</li> <li>・研究内容説明（動画）</li> <li>・学生の声（動画）</li> </ul>

表 2 オンライン企画概要

オンライン企画	日程	参加人数
人間健康科学科オンライン相談会	7月下旬～8月中旬	30名
先端理学療法学講座オンライン相談会	8月5日（木）	21名
先端作業療法学講座オンライン相談会	7月下旬～8月下旬	—

## 博士授与者と論文題目

近 田 藍

論文題目：“A descriptive analysis of end-of-life discussions for high-grade glioma patients  
(悪性神経膠腫患者の End of Life Discussion に関する記述的研究)”

王 天 舒

論文題目：“Low-intensity pulsed ultrasound prompts both functional and histologic improvements while upregulating the brain-derived neurotrophic factor expression after sciatic crush injury in rats  
(低出力パルス超音波は、脳由来神経栄養因子の発現を促進し、ラットの坐骨神経圧挫損傷後の組織的及び機能的な改善を促す)”

青木（佐久間） 香

論文題目：“Immediate effects of stance and swing phase training on gait in patients with stroke  
(脳卒中後片麻痺者における歩行立脚期と遊脚期を想定した練習の即時効果)”

藤 野 葉 子

論文題目：“Seasonal effects on the continuous positive airway pressure adherence of patients with obstructive sleep apnea  
(季節変動が睡眠時無呼吸 (OSA) 患者の持続陽圧呼吸療法 (CPAP) アドヒアランスに与える影響)”

中 本 五 鈴

論文題目：“Diurnal rhythms of urine volume and electrolyte excretion in healthy young men under differing intensities of daytime light exposure  
(健康若年男性の異なる日中の光曝露での尿および尿中電解質の排泄日内リズム)”

渡 辺 翔 吾

論文題目：“Generative image transformer (GIT) : unsupervised continuous image generative and transformable model for [<sup>123</sup>I]FP-CIT SPECT images  
(画像生成 Transformer (GIT) : [<sup>123</sup>I]FP-CIT SPECT 画像における教師なし連続画像生成変換モデル)”

足 立 孝 則

論文題目：“Multi-institutional dose-segmented dosiomic analysis for predicting radiation pneumonitis after lung stereotactic body radiation therapy  
(多施設共同研究による肺定位放射線治療後の放射線肺臓炎発症予測に関する線量分布オミクス解析)”

中 澤 麻 衣

論文題目：“Novel cancer subtyping method based on patient-specific gene regulatory network  
(患者特異的な遺伝子制御ネットワークに基づくがん層別化手法の開発)”

三 浦 辰 朗

論文題目：“Improved accuracy of tissue glucose measurement using low magnification optical coherence tomography  
(低倍率光干渉断層法を用いた組織グルコース計測の精度改善)”



下 浦 佳南子

論文題目：“Immediate effect of neuromuscular electrical stimulation on the abductor hallucis muscle: A randomized controlled trial  
(母趾外転筋への神経筋電気刺激の即時効果：ランダム化比較試験)”

川 崎 詩歩未

論文題目：“Gait improvements by assisting hip movements with the robot in children with cerebral palsy: a pilot randomized controlled trial  
(脳性麻痺児の歩行に対してロボットによる股関節誘導がもたらす効果の検討)”

谷 口 健太郎

論文題目：“Coordination between heart rate variability and physical activity may be diminished by fatigability in non-older women in the hour before sleep  
(非高齢女性では就寝前の心拍変動と身体活動の協働連関は疲労感により減衰する)”

脇 田 正 徳

論文題目：“Novel gait training using a dual-belt treadmill in older adults: A randomized controlled trial  
(高齢者におけるデュアルベルトトレッドミルを用いた新しい歩行トレーニング：ランダム化比較試験)”

## 博士号を取得して

近田 藍

2021年5月に博士号を取得いたしました近田藍と申します。この度は、寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は、修士課程・博士後期課程において、早期に自律性や意思決定能力を脅かす重篤な疾患である、原発性悪性脳腫瘍患者に対する意思決定支援に関する研究に取り組んで参りました。この研究のきっかけは、看護師として本学附属病院の脳神経外科で勤務している際に、脳腫瘍患者本人が、家族や医療者の判断により意思決定に参画されないまま、治療やケアの方針が決まることに倫理的なジレンマを抱いたことでした。研究の一連の過程を通して、学問的な知識やスキルの獲得だけでなく、患者さんとそのご家族とじっくり向き合えたことで当事者の体験や考えの理解を深める貴重な機会となり、看護師としても成長できたと感じております。

これからも、患者さんの価値観や意思を尊重した医療・ケアの実現に向けた研究と教育活動を通して、臨床や社会に貢献できるよう精進してまいります。

最後になりましたが、研究にご協力くださいました参加者の皆様、長年にわたりご指導および鼓舞激励を賜りました任和子教授、竹之内沙弥香准教授、お世話になった多くの先生方、研究室の皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



## 博士号を取得して

青木（佐久間） 香

2021年7月に博士号を取得いたしました青木（佐久間）香と申します。寄稿の機会をいただきありがとうございます。

私は、理学療法士免許取得後5年間リハビリテーション病院で勤務した後に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程に入学しました。臨床における疑問に取り組む楽しさに取りつかれ、修士課程修了後3年間の臨床復帰を経て、2012年に博士後期課程に入学する運びとなりました。脳卒中後に歩行障害を有する方が実施しやすい運動療法の適応と効果を明らかにし、日々の理学療法や退院後の自主トレーニングを根拠ある内容にしたいとの思いから研究に取り組んで参りました。研究計画の段階から色んな困難に直面し、博士号を取得できるまで10年近くを要しましたが、その間、出来の悪い私を見捨てることなく指導して下さった市橋先生、建内先生を始めとする多くの先生方に、本誌をお借りして感謝申し上げます。また、支え合い、競い合いができる院生との出会いにも恵まれ、感謝しています。

皆様のお陰で現在、兵庫医科大学で教員をしております。教員となって、先生方の教育や研究を反芻するとともに、同窓生の活躍を誇らしく思う（と同時に焦る）日々を過ごしています。教育、研究ともに未熟者ですが、京都大学で受けた恩を社会に還元できるよう、昨日の自分より明日の自分が成長できるようコツコツと精進して参ります。

## 博士後期課程で得たもの

藤野 葉子

この度は寄稿の機会をいただき、真に感謝申し上げます。私は、愛媛大学病院の睡眠医療センターに勤務しながら博士課程に進学しました。睡眠医療の疾患の中で占める割合の高い“睡眠時無呼吸症候群”の患者さんの治療環境について研究をしたいと考えるようになり、2016年から生活環境学分野の若村研究室で学ぶ機会をいただきました。入学後も病院勤務を継続し、シフト勤務の合間を縫って大学に通いました。2019年に単位取得退学した後は、リモート媒体などを通して指導を継続していただき、令和3(2021)年11月に博士(人間健康科学)の学位を取得しました。臨床で生まれた疑問に対する一連のデータ収集から解析、論文化までを、進んでは戻りを繰り返しながら、周囲の支えもあり、博士号を取得することができました。しかしながら、そこにあったのは予想していた解放感ではなく、新たなスタートラインに立ったのだと気の引き締まる思いでした。博士課程は研究と論文執筆が中心となり、主体的に進めていく能力が求められ、課題意識、論理的思考、問題解決能力があらゆる場面で試されます。課程を終えた今でも、まだまだ未熟さを残しておりますが、臨床で見える景色が、より鮮明になってきていることを実感しています。今後も研究マインドを持ち続け、臨床現場に還元していけるよう励んでいきたいと思っています。そして何より、全国から学生の集まる研究室で、幅広い世代・背景をもつ方々との出会いやつながりは、研究を続けていくうえだけではなく、人生においても、私にとって大きな財産となっています。

最後になりましたが、長きにわたりご指導を賜りました若村智子教授、研究室の皆様、心より御礼申し上げます。

## 博士号を取得して

中本 五鈴

寄稿の機会をいただきありがとうございます。私は、2019年度に看護科学コースの博士後期課程に入学し、2021年度に博士号を取得することができました。

私の博士研究のテーマは「日中の光環境の違いが尿生成の日内リズムに及ぼす影響」です。学部時代から、生体リズムの授業や卒研を通して、人が心身ともに健康な生活をおくるには生体リズムを整えることが大切であることを学んでおりました。そして、看護師として勤務する中で、患者さんの排尿リズムが乱れていることに気づきました。看護として生活環境を整えることで、排尿リズムを整え、夜間排尿による睡眠の質の低下を防ぐことはできないかと考え、本研究に着手しました。研究は、人間健康科学科棟の中にある実験室で行いました。24時間以上の連続した生体リズムを観察するために、3泊4日の宿泊実験を実施しました。そのため、2～3か月にわたる実験中は実験者も宿泊です。研究室のメンバーがシフト制で実験に協力して下さり、無事に実験を完遂することができました。博士課程で、このような実験室実験を実施することができた経験は、私がこれから研究者として歩いていく上で、とても貴重な経験となりました。現在は、仙台で研究と教育に一生懸命に取り組んでおります。

最後になりましたが、研究にご協力くださいました参加者の皆様、長年に渡りご指導賜りました若村智子教授、お世話になりました諸先生方、研究室の皆様、この場を借りて心より御礼申し上げます。

## 博士号を取得して

渡辺 翔吾

2022年3月に博士号を取得しました、渡辺翔吾と申します。この度はこのような機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

私は博士課程において、主に機械学習を用いたパーキンソン病の診断支援システムの開発に取り組むとともに、近年益々注目を集め、急速に発展していく人工知能分野の技術を、医用画像・医用情報に応用するための研究に取り組みました。

その過程で様々な困難に直面することもありましたが、自ら考え、行動して学ぶという姿勢を、京都大学という良き環境の中で実践することができました。

また研究過程においては、アイデアを生み出すだけでなく、実験から得られた結果を鋭く観察し、深く考察することの大切さを指導して頂きました。これらは今後の研究人生において貴重な財産になると思っております。

今後は博士課程で学び、身につけたものを活かし、研究としての成果だけでなく、臨床現場においても価値あるものを生み出せるよう、より一層精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、研究過程におけるご指導と学位取得までの道のりにご尽力頂きました指導教官の杉本直三先生、関わりを持ってくださった諸先生方、事務員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



## 博士後期課程を振り返って

足立 孝則

令和4年3月に博士後期課程を修了いたしました、足立孝則と申します。この度は、広報への寄稿という貴重な機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

私は、平成31年3月に大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士課程を修了した後、本学博士後期課程の医学物理分野（指導教員：中村 光宏 准教授）に進学いたしました。博士後期課程では、放射線治療を施行する上で取得される多種多様な医用画像から抽出される画像特徴量を活用した患者予後予測に関する研究を遂行しました。本研究室は、医学物理活動において本邦で最も歴史があり、多くの臨床データや医療機器等を利用できる恵まれた環境でした。ゆえに、朝から晩まで自由に研究活動に没頭することができたと思います。その成果として、博士後期課程に在籍する3年間の内に、筆頭著者として国際学術誌に英語論文を3報投稿し、全て採択に至りました。また、上記の研究活動と並行し、京都大学医学部附属病院放射線治療科にも身を置き、医学物理士として On-the-job training 形式にて臨床経験を積みました。医学物理士としての二刀流生活（研究＋臨床）は大変でしたが、今後、臨床・研究の両面で活躍できる高いスキルを身に付けることができました。

令和4年4月より、京都大学医学部附属病院放射線治療科にて医学物理士（特定助教）として勤務しております。医学物理士としての研究力・臨床力を活用することに加え、今後は後輩を育成するための教育力を身に付けたいと考えております。

最後になりますが、これまでご指導を賜りました中村光宏准教授、京都大学医学部附属病院放射線治療科のスタッフの皆様、医学物理研究室の皆様にも、心より厚く御礼申し上げます。





## 大学院生活を振り返って

三浦 辰朗

この度はこのような寄稿の機会を頂きまして誠にありがとうございます。

私は2011年の研究室配属時に「非観血的血糖計測システムの開発」をテーマとして選びました。以降修士課程、博士後期課程、また博士後期課程を単位取得後退学した後も研究協力員として在籍し、同研究室・同テーマにおいて11年間研究に携わりました。修士課程を修了した頃から非常勤臨床検査技師として病院勤務を始めましたが、臨床で検体検査業務に従事する一方で大学にも引き続き通って研究を続け、2022年3月に博士（人間健康科学）の学位を取得した次第です。

研究と病院勤務との両立や論文執筆に苦闘し、研究を半ばで諦めようと考えたこともありました。しかし、先生方のご助力もあって何とか踏み留まり、博士号取得という一つの大きな区切りまで漕ぎつけることができました。長きに渡る研究生生活は決して順調な歩みではありませんでしたが、自分の研究の実験・解析等をはじめとして、ゼミや学会発表、論文執筆、プロジェクトの分担研究といった様々な活動を通じて得られた知識や経験を還元し、今後の臨床及び研究における活動に励んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、長年にわたりご指導賜りました精山明敏教授、ご協力及びご助言いただきました先生方、研究室の皆様がこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

## 博士号を取得して

下浦 佳南子

令和4年3月に博士号を取得しました下浦佳南子と申します。この度はこのような貴重な機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

私は京都大学の理学療法学専攻を卒業後、修士課程、博士後期課程へと進学し、変形性膝関節症や外反母趾をテーマに研究を行っておりました。博士号取得までを振り返ると、様々な研究分野やバックグラウンドを持つ方々と研究を通して交流できたことは、非常に大きな財産だったと思います。研究に取り組んでいると、どうしても考えが狭くなり行き詰まることがあったのですが、このようなときに異なるバックグラウンドを持つ方々と意見交換を行うことで、視野が広くなりより良い成果に繋がるという経験をすることができました。これらの経験によって、研究者として大きく成長することができたのではないかと感じています。

現在は一般企業で医薬品の臨床開発職として勤務し、大学院で得た臨床研究の知識やデータ分析のスキルを活かして臨床研究のマネジメントを行っております。環境は変わりましたが、人の健康に貢献したいという思いを忘れずに、日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、入学当初から10年もの間ご指導頂いた青山朋樹先生、いつも温かくご指導して下さった谷間桃子先生、共同研究でお世話になった先生方、一緒に研究に取り組んで下さった研究室の皆様がこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

## 博士号取得までの道のりを振り返って

川崎 詩歩未

私は脳性麻痺児に対するリハビリテーションロボットの効果に関する研究を行い、2022年3月に博士号（人間健康科学）を取得いたしました。大学院の修士課程入学当初は、漠然とリハビリテーションロボットの開発や効果検証に携わりたいとしか考えておりませんでした。しかし、研究の中で、ロボットを装着していない状態では足を前に出すことが出来ず悔しがる脳性麻痺のお子さんを目にし、博士後期課程以降は小児疾患に対するリハビリテーションの発展に貢献したいと強く思うようになりました。

上記の想いから、博士後期課程入学と同時に京都市内の総合支援学校において非常勤理学療法士としての勤務を開始いたしました。総合支援学校では、子供たちの身体活動に対する教育的支援について学ぶことができ、より一層理学療法に対する視野を広げることができたと感じております。また、子供たちの運動発達は、重症度によって一律ではなく、何歳であったとしても日々の活動内容とその頻度、支援や環境を調整することで大きく成長することも身をもって実感いたしました。

大学院卒業後から2年間は総合支援学校における勤務を継続しながら京都大学や脳情報通信融合研究センターにて研究活動を実施してまいりました。7年間研究に携わりデータと向き合う日々を過ごしてまいりましたが、直接子供達や患者様と向き合いたい気持ちが大きくなり、今春からは新たに神戸の医療福祉センターにて重症心身障がい児者を中心に関わっています。これまでの研究生活の中で得た知識や思考を実際の臨床場面にて活かせるよう尽力したいと思います。最後になりましたが、ご指導賜りました大畑光司先生、坪山直生先生、山田重人先生、青山朋樹先生、研究室の皆様および研究に参加して下さった方々に心より感謝申し上げます。

## 博士号を取得して

谷口 健太郎

この度はこのような寄稿の機会をいただきまして誠にありがとうございます。

縁がありまして、修士学生の頃より、京都大学及び国立循環器病研究センターで研究を行わせていただきました。振り返ってみますと、素晴らしい環境で自由に研究させていただき、とても恵まれていました。日常生活下において、自律神経活動と身体活動との協働連関より、様々な生体情報と結びつけるという研究を行わせていただきました。学位取得に想定以上の労力と年数がかかりましたが、この経験を糧に今後も研究を発展させていきたいと考えております。博士号は研究者としてのスタートラインと考え、現在赴任先の長浜バイオ大学において、今後も精進してまいりたい所存です。

最後になりましたが、長年にわたりご指導をいただきました精山明敏教授、この場をお借りして深く御礼申し上げます。また、研究者としてだけでなく、一人前の社会人となるべく、多くのご指導を賜りました中部大学、下内章人教授をはじめ、お世話になりました先生方、研究にご協力いただきました被験者の皆様に感謝申し上げます。



## 博士号を取得して

脇田 正徳

令和3年3月に博士号を取得しました。平成26年に博士後期課程に入学して、8年かけて学位論文を提出することができました。8年間の過程は決して順調ではなく、諦めそうになった時期もありましたので、学位記を手にしたときは感慨深いものがありました。

学位論文では、地域在住高齢者を対象として、職場の関西医科大学で開発したバランストレーニング機器の効果をランダム化比較試験により検証しました。臨床研究では事前の仮説と精巧に練られたデザインが重要であること、加えて職場においてチームとして研究を推進させるためのマネジメント能力が必要であると学びました。

令和2年度より関西医科大学リハビリテーション学部に着任し、教員として勤務しています。臨床現場と連携して、科学的技術を積極的に導入しながら、社会課題に応えられる研究を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、長きにわたりご指導くださいました山田重人先生、大畑光司先生、たくさんサポートしていただいた研究室、職場の皆様に、心より感謝申し上げます。

## 人間健康科学系専攻・人間健康科学科 令和4年度入学試験結果及び令和3年度修了・卒業者数

### 令和4年度 医学部人間健康科学科入学試験結果

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	45	15	15
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	特色	5	17	4	4
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)	特色	5	13	3	3
一 括	一般	70	217	85	83
合 計		100	292	107	105

### 令和4年度 医学部人間健康科学科（2年次学士）入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	12	10	3	2
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)	5	2	0	0
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		2	1	1
合 計	17	14	4	3

### 令和4年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）

#### 入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース { 専門看護師課程（内数） } 【高度実践助産学系（内数）】	70【10】	29[5] {0[0]} 【15[1]】	19[3] {0[0]} 【7[0]】	14[3] {0[0]} 【5[0]】
先端リハビリテーション科学コース (先端理学療法学講座)		17[2]	15[0]	15[0]
先端リハビリテーション科学コース (先端作業療法学講座)		9[1]	7[1]	7[1]
総合医療科学コース		51[0]	42[0]	41[0]
合 計	70	106	83	77

[ ]の数は、社会人特別選抜（内数）



## 令和4年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

## 入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	25	8[1]	5[1]	5[1]
先端リハビリテーション科学コース （先端理学療法学講座）		4[0]	3[0]	3[0]
先端リハビリテーション科学コース （先端作業療法学講座）		4[0]	2[0]	1[0]
総合医療科学コース		4[0]	3[0]	3[0]
合計	25	20	13	12

[ ]の数は、内部進学試験（内数）

## 令和3年度 医学部人間健康科学科卒業生数

コース・専攻	卒業生数
先端看護科学コース 看護学専攻	36 2
先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座） 理学療法学専攻	17 1
先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座） 作業療法学専攻	14 1
総合医療科学コース 検査技術科学専攻	53 4
合計	128

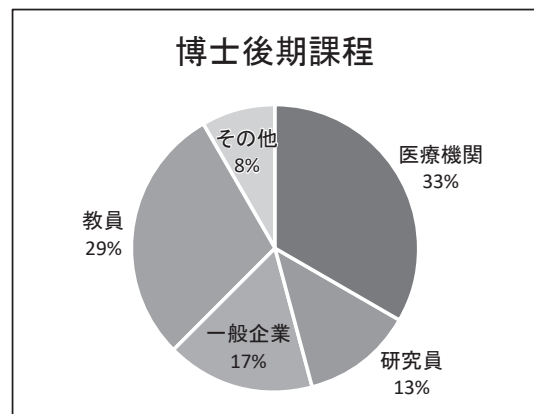
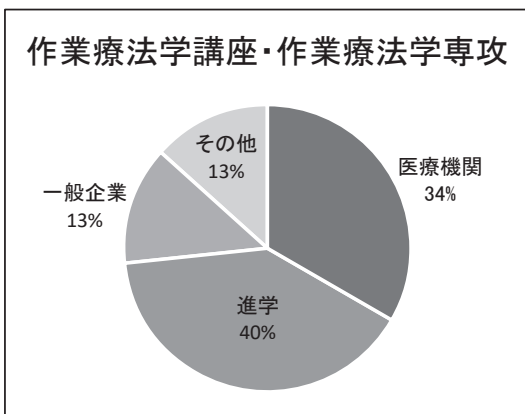
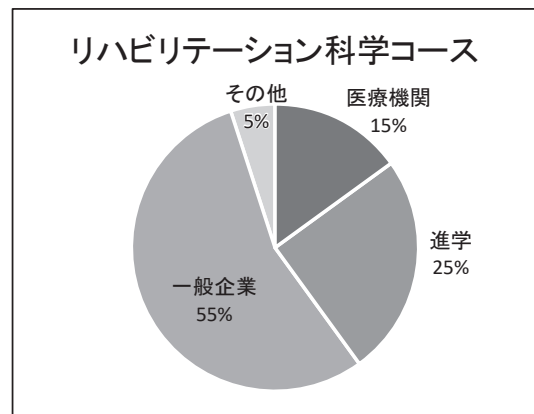
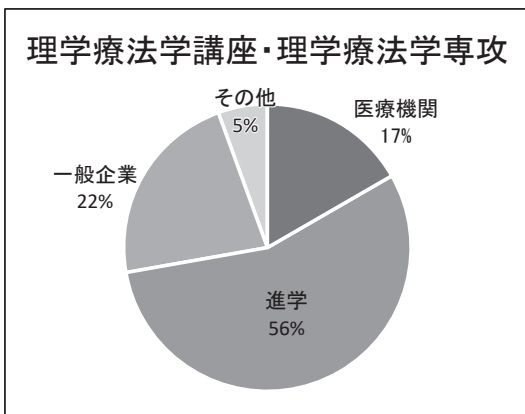
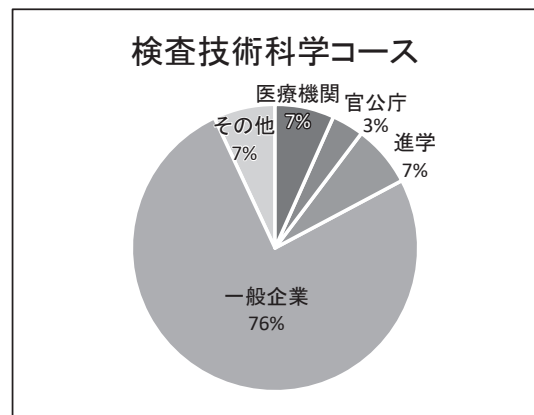
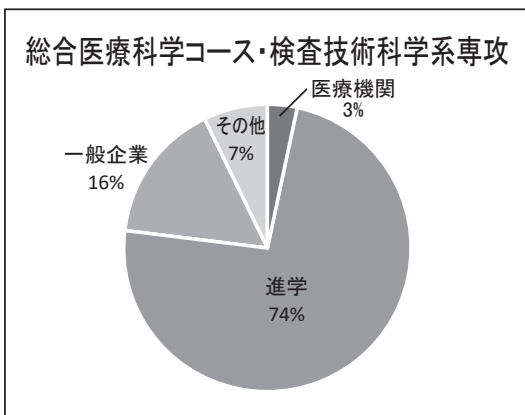
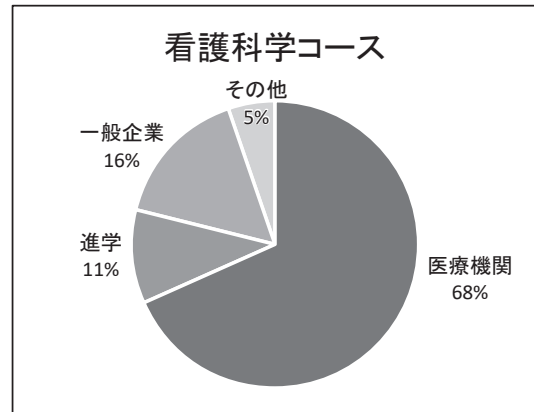
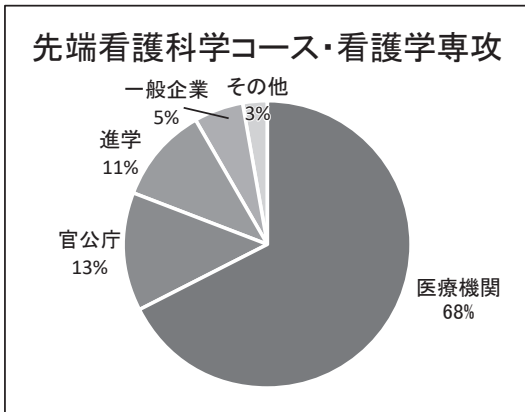
## 令和3年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】	19 【10】
検査技術科学コース	29
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	15
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	6
合計	69

## 令和3年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース	4
検査技術科学コース	4
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	5
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	0
合計	13

## 令和3年度（2022年3月） 卒業・修了生の進路調査結果



## 人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
令和3年5月31日	特定講師	小島 諒介	先端基盤看護科学講座	辞職
令和3年6月1日	講師	小島 諒介	近未来型人間健康科学融合ユニット	採用
令和3年6月1日	特定准教授	峰晴 陽平	健康医療 AI 講座（産学共同）	採用
令和3年6月1日	特定助教	糺谷 泰彦	健康医療 AI 講座（産学共同）	採用
令和3年6月30日	特定研究員	LIU, Chang	先端作業療法学講座	辞職
令和3年7月1日	教授	上野 里絵	先端中核看護科学講座	採用
令和3年8月1日	講師	大滝 千文	先端広域看護科学講座	採用
令和3年9月30日	講師	山田 純栄	先端作業療法学講座	任期満了
令和3年10月1日	特定准教授	大塚 教雄	先端基盤看護科学講座	採用
令和3年11月1日	特定研究員	BOONCHAN, Michittra	健康医療 AI 講座（産学共同）	採用
令和3年12月1日	助教	鳥井 美江	先端基盤看護科学講座	採用
令和4年1月31日	助教	岡橋 さやか	先端作業療法学講座	任期満了
令和4年1月31日	特定助教	近藤 健悟	理工系医療科学講座	任期満了
令和4年2月1日	助教	草野 佑介	先端作業療法学講座	採用
令和4年2月28日	講師	近藤 祥子	先端広域看護科学講座	辞職
令和4年3月1日	助教	清水 彬礼	先端中核看護科学講座	採用
令和4年3月31日	准教授	加藤 寿宏	先端作業療法学講座	辞職
令和4年3月31日	准教授	宇都宮 明美	先端中核看護科学講座	辞職
令和4年3月31日	助教	佐藤 隆平	先端中核看護科学講座	辞職
令和4年3月31日	教授	椎名 毅	理工系医療科学講座	辞職
令和4年3月31日	教授	上野 里絵	先端中核看護科学講座	辞職
令和4年3月31日	教授	精山 明敏	理工系医療科学講座	定年退職
令和4年3月31日	教授	林 悠	先端作業療法学講座	辞職
令和4年3月31日	特定准教授	山川 誠	理工系医療科学講座	任期満了
令和4年3月31日	特定助教	浪田 健	理工系医療科学講座	任期満了
令和4年3月31日	特定教授	上久保 靖彦	臨床系医療科学講座	任期満了
令和4年3月31日	特定准教授	福間 真悟	臨床系医療科学講座	任期満了
令和4年3月31日	特定講師	河本 大知	臨床系医療科学講座	辞職
令和4年4月1日	准教授	福間 真悟	臨床系医療科学講座	採用
令和4年4月1日	准教授	白井 由紀	先端中核看護科学講座	採用
令和4年4月1日	助教	井沢 知子	先端中核看護科学講座	採用
令和4年4月1日	教授	中尾 恵	理工系医療科学講座	採用
令和4年4月1日	講師	入江 啓輔	先端作業療法学講座	昇任
令和4年4月1日	講師	田畑 阿美	先端作業療法学講座	昇任
令和4年4月1日	准教授	谷向 仁	先端作業療法学講座	採用

発令年月日	職名	氏名	所属	異動事由
令和4年4月1日	准教授	鎌田 真由美	医療DX教育研究センター医療データ活用部門	配置換
令和4年4月1日	講師	小島 諒介	医療DX教育研究センター医療データ活用部門	配置換
令和4年4月1日	特定助教	原田 陽平	先端基盤看護科学講座	採用
令和4年4月1日	特定助教	佐藤 憲明	先端基盤看護科学講座	採用
令和4年4月1日	特定助教	内野 詠一郎	先端基盤看護科学講座	採用
令和4年4月1日	特定教授	林 悠	先端作業療法学講座	採用
令和4年4月30日	准教授	松岡 真里	先端基盤看護科学講座	辞職
令和4年5月1日	准教授	常田 裕子	先端広域看護科学講座	採用
令和4年5月1日	助教	浅瀬 万里子	先端中核看護科学講座	採用
令和4年5月1日	助教	兼重 美希	先端作業療法学講座	採用



## 日 誌 (R3.4 ~ R4.3)

4.1	病院協議会	9.2	病院協議会
4.5	大学院新入生ガイダンス		教務・教育委員会
4.7	学部入学式	9.8	執行部会議
	大学院入学式	9.9	臨時教授会
	学部新入生ガイダンス		医学研究科将来計画検討委員会
	学部2回生ガイダンス		医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
	執行部会議	9.10	2年次学士入学試験合格発表
4.8	医学研究科会議・医学教授会		大学院修士課程入学試験合格発表
	教務・教育委員会	9.13	拡大執行部会議
4.12	拡大執行部会議	9.16	研究紹介
4.15	教員会議		教員会議
	教授会・学系会議		教授会・学系会議
4.19	執行部会議	9.22	執行部会議
4.22	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	9.24	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
5.6	病院協議会	10.6	執行部会議
5.12	執行部会議	10.7	病院協議会
5.13	医学研究科将来計画検討委員会		教務・教育委員会
	医学研究科会議・医学教授会	10.13	解剖体祭
	教務・教育委員会	10.14	医学研究科将来計画検討委員会
5.17	拡大執行部会議		医学研究科会議・医学教授会
5.20	研究紹介	10.18	拡大執行部会議
	教員会議	10.21	教員会議
	教授会・学系会議		教授会・学系会議
5.22	大学院説明会〔先端作業療法学講座〕	10.27	執行部会議
5.24	執行部会議	10.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
5.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		
5.28	大学院説明会〔総合医療科学コース〕	11.2	大学院博士後期課程入学試験
5.29	大学院説明会〔先端看護科学コース〕	11.4	病院協議会
6.3	病院協議会	11.10	執行部会議
	教務・教育委員会	11.11	教務・教育委員会
6.9	執行部会議		過半数代表者選挙投票日
6.10	医学研究科会議・医学教授会		医学研究科会議・医学教授会・医学部教授会・
6.12	大学院説明会〔先端理学療法学講座〕		医学系群会議
6.14	拡大執行部会議	11.13-14	特色入試第2次選考
6.17	人間健康科学V説明会(オンライン)	11.15	拡大執行部会議
	教員会議	11.18	教員会議
	教授会・学系会議	11.19-22	11月祭(オンライン)
6.18	創立記念日		教授会・学系会議
6.21	執行部会議	11.24	執行部会議
6.24	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	11.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
			医学研究科会議・医学部教授会
		11.26	博士後期課程入学試験合格発表
7.1	病院協議会	12.2	病院協議会
	教務・教育委員会		教務・教育委員会
7.7	執行部会議	12.8	執行部会議
7.8	医学研究科将来計画検討委員会	12.9	医学研究科将来計画検討委員会
	医学研究科会議・医学教授会・臨時教授会		医学研究科会議・医学教授会・医学系群会議
7.12	拡大執行部会議	12.13	拡大執行部会議
7.15	教員会議	12.16	研究紹介
	教授会・学系会議		教員会議
7.19	執行部会議		教授会・学系会議
7.21	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	12.22	執行部会議
7/30-1/31	オープンキャンパス(オンライン)	12.23	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
8.16-18	夏季一斉休業	12.25	京都大学医学教育ワークショップ(KUROME)
8.20	2年次学士入学試験		(オンライン)
8.24	大学院修士課程入学試験		

## 日 誌 (R3.4 ~ R4.3)

1.4	新年挨拶会	2.24	執行部会議 医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
1.6	病院協議会 教務・教育委員会		医学研究科会議・医学教授会・医学系群会議
1.12	執行部会議	2.25-26	学部入試
1.13	医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会・ 医学系群会議	3.3	病院協議会 教務・教育委員会
1.15-16	大学入学共通テスト	3.9	臨時教授会 医学部教授会
1.17	拡大執行部会議		執行部会議
1.20	研究紹介 教員会議 教授会・学系会議	3.10	学部入試合格発表 医学研究科将来計画検討委員会
1.26	執行部会議		医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
1.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議 医学研究科会議・医学教授会・医学系群会議		医学研究科会議・医学教授会・医学系群会議
2.3	病院協議会 教務・教育委員会	3.14	拡大執行部会議
2.9	執行部会議	3.17	人間健康FD討論会（オンライン） 研究紹介 教員会議 教授会・学系会議
2.10	医学研究科将来計画検討委員会 医学研究科会議・医学教授会・医学系群会議	3.23	執行部会議 修士・博士学位授与
2.14	拡大執行部会議 臨時教授会	3.24	修士・博士学位記授与 学部学位記授与 医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
2.15	特色入試合格発表	3.26	医学部教授会
2.17	教員会議 教授会・学系会議		

## あとがき

新型コロナウイルス感染症が京都大学にも大きな影響を及ぼす中、本年も無事に広報をお届けする事ができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などご紹介したいと思います。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

(奥野 恭史)



<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

